



2014年は 3月の上田市長・市議会議員選挙・・・夏の県知事選挙
そして 寝込みを襲うような解散・総選挙と4回の選挙がありました
ご支持ご支援いただいたみなさんにあらためて心より感謝申し上げます

6・9月議会につづき「ごみ問題」について質問

負担の公平

Q 市長は、資源循環型施設建設対策連絡会が主張する「負担の公平」についてどのようなように考えているか。

といった、一定の負担を担うという意識を常め、意見交換会の再開に持ち続け、行動することが重要であると認識している。お会いしお願いしている。

全住民が負担を公平に担うこと

A (市長) 諏訪部・秋和地域は、過去から様々な迷惑施設が集中しており、今日まで、地域の皆様の御理解と御協力をたいし心から感謝を申し上げます。

トップの責任

合意形成

Q 「意見交換会の再開をお願いしていく」とな提案が「ベストの案」だが、関係自治会もだとは思っていないのか。

上田市長として率先して会ってお願いする
早期に問題点を整理する

A (市長) 真摯に地域の皆様の声に耳を傾け御指摘いただいた

では、施設から利益を受ける圏域住民が、施設をお願いする地域のために、少しでも可燃ごみを減らし、再資源化を推進するといった行動に繋げ、全住民が関わって共に取り組む

A (市長)、地域の皆様との対話や相互理解は何よりも重要であり、役員の皆様との意見交換は大変貴重であるとして、意見交換会の再開を正式に対策連絡会に上田市長としても率先申し入れたい。

わたなべ正博のノート

[12月]



- 1日 一般質問
- 2日 一般質問「午後3時登壇」
*衆院選公示
- 3日 一般質問
- 4日 議会広報特別員会
*党市議団会議「予算要望」
- 5日 議会産業水道委員会
- 6日 塩田中学3年7組同級会「別所」
浅間池水系の水路改修作業
*浅間池代表会忘年会「上山田」
*選挙運動本格スタート
- 7日 党市議団会議「予算要望」
浅間池耐震診断現地説明会
トウトク門前ピラ入れ「衆院選挙」
うえだ給食まつり「道と川の駅」
*衆院選挙投票日「21議席確保」
12月議会閉会
- 15日 上田駅前モーニングスピーチ
*党市議団会議「予算要望」
*渡辺ブロック役員忘年会「武石」
*「ボンデール」で夕食 *大雪*
- 16日 予算要望書づくり
- 17日 予算要望書最終チェック
*通信「絆」づくり
- 18日 晴夫ちゃん主催の忘年会「別所」
「ごみ問題」環境建設委員会と広域
連合保健福祉委員会との意見交換会
*憲法連絡会
- 19日 陽だまり相談会「餅つき大会」
*モルティー街宣
- 20日 「NPT」NY代表団会議「長野」
広域連合「保健福祉委員会」
上田市衆院選挙総括会議
生活相談「連帯保証人」
医療生協定期検診
モルティー街宣
- 21日
- 22日
- 23日
- 24日
- 26日
- 27日
- 28日 消防15分団詰め所引き渡し式
衆院選挙ご苦労さん忘年会

「集団的自衛権行使容認の閣議決定を撤回すること」を求める「願」に賛成の立場で討論しました。「賛成は共産党4十上田新風会3」

民意尊重の原則

憲法の基本原則に関わるこのような重大な解釈変更を、閣議決定という一内閣の判断で行うことは、立憲主義に反し、憲法の存在意義を失わせるもので、許されるものではない。同時に、民意に反しています。

あの・・・「産経新聞社」の調査でも、閣議決定を「評価しない」は56・0%と、他の世論調査と同様に過半数以上が批判的です。政治は民意を映す鏡となるべきです。

「限定」や「歯止め」を具体化する責任を果たさせるのか

一方で反対討論に立った公明党松尾議員は、憲法9条を踏みにじる「集団的自

衛権」は反対です・・・。加えて世論調査は、いろいろです。というものでした。

閣議決定に基づいて、来年の通常国会で改定法が出されてきます。

新たな武力行使の「3要件」が閣議決定の中に組み込まれた。とする公明党には、「限定」や「歯止め」を具体化する責任がきちんと果たせるのかな。

「安倍政権の暴走を止めてもらいたい」この声に伝えて全力

共産党勝利の選挙結果

共産党は公示前の議席を増増させただけでなく、小選挙区の1議席を含めて13議席も増やして21議席となり議案提案権を獲得しました。

今回の選挙で最も議席を増やしたのが共産党であったということからすれば、勝ったのは共産党ということになります。アベノミクスなど安倍



北陸信越ブロックでは11年ぶりの議席藤野保史衆議院議員誕生です。



投票日翌日(15日)上田駅前での勝利報告。私の奥が唐沢ちあきさんです。

21 議席

日本共産党へのご支持

ご支援ありがとうございました

【議案提案権を獲得】

首相が進もうとしている「この道」に対して、「もう少しやらせてみよう」と思った人は自民党に、存在していましたが、一段と「自共対決」の構図が鮮明になってきました。

「あまり行き過ぎでは困る」という人は公明党や民主党に・・・。

「自共対決」の構図が鮮明に

そして「ブレーキをかけて止めてもらいたい」と考えたみなさんが共産党に入れたとおもいました。

野党内では、極右政党「次世代の党」が19議席から2議席となるなど様変わりして、共産党が活躍できる余地は格段に高まりました。

一貫として票を減らし続けてきた自民党

自民党は「圧勝」したとされていますが、議席総数で2議席、小選挙区では222議席と15議席減らし、小選挙区の得票数も2546万票で18万票の減少です。

小選挙区での得票数の推移を見れば、自民党は政権を失った09年に522万票も減らしただけでなく、12年に166万票減、そして今回も18万票減と一貫して票を減らしてきました。

小選挙区制の廃止を

それにもかかわらず多数議席を獲得できたのは比較第1党が議席を独占できるという小選挙区制のカラクリのためであり、今回も48・1%の得票率で75・3%の議席を得ています。

この間、有権者は自民党に「ダメ」を出し続けているにもかかわらず、その意思は全く議席に反映されていないということになります。